

## 慶應義塾大学経済学部「英語セミナー（上級）」 （1-4年生）授業実践報告

松岡, 和美  
慶應義塾大学経済学部 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/4822594>

---

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp. 96-96, 2021-04-30. 雷音学術出版  
バージョン :  
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

## 1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

【授業の目的】経済学部英語部会では、特定のトピックについて英語で学びながら学術英語の基本を身に付けることを目的とする content-based のカリキュラムを展開している。この授業(選択必修)ではビジネスの初歩のトピック(会社組織・フランチャイズシステム・資金調達など)をとりあげた。

【履修者数】14 名(ほとんどが 1 年生)

【授業形式】ZOOMと大学独自の LMS を用いた双方向オンライン授業(週 2 回半期)。自宅等で Wifi 環境が整わない学生は学内の指定教室から接続することも可能であった。全員カメラオンの方針としたため、個人情報保護の観点から授業の録画は行わなかった。接続不良の場合は個別対応を予定していたが、複数回の授業に出席できないなどの深刻な接続トラブルはなかった。期末レポートと発表の準備を指導する回のみ、何度も内容を確認できるよう事前録画によるオンデマンド方式を採用した。

【授業内容】下記の方法で 4 技能の指導を行った。

◆リーディング:毎回の授業冒頭で速読教材の PDF を LMS で提示し、ストップウォッチ画面を共有して読み時間を計測し、内容確認テストのスコアと 1 分あたりの語数を LMS アンケート機能で記録した。期末プロジェクトでは、学生がそれぞれ選んだ企業について英語文献を含めた文献調査を課した。文献の探し方については図書館スタッフによるオンデマンド形式の講習を手配した。

◆ライティング:Five-paragraph essay(中間)とプロジェクト成果をまとめたレポート(期末)。どちらも Thesis と 3 つの Supporting points から成る論理構成と、Supporting point を具体例で発展させるアウトライン作成の指導に時間をかけた。期末レポートには下書きの提出を課し、LMS 上でのファイルのやり取りによるフィードバックを行った。

◆リスニング:教科書付属 CD に収録されたインタビューや図表解説のリスニングタスクを用いた。

◆スピーキング:カジュアルな会話を継続するためのコミュニケーションストラテジー (Answer-Add-

Ask)を学期のはじめに集中的に指導したうえで、毎回の授業の冒頭に 5 分間のペア会話タイムを設定した。口頭発表にあたっては、質疑応答の方法やマナーを指導したうえで、質問そのものではなく「発表者の質問への対応」を評価項目に含めることで、質問は発表者をサポートする活動と位置付け、自発的な質問を促した。

【使用言語】授業はすべて英語で行った。情報共有時のトラブルを防ぐため、LMS 上の告知および授業以外の時間の個別指導は日本語で行った。

【成績評価】 中間発表・中間レポート・期末プロジェクト発表・期末レポート・授業参加

【オンライン授業を意識した対応】例年招いている社会人外部講師の回を増やした。授業後の交流タイム 15 分を日本語で行い、大学を卒業した後の社会とのつながりを意識させるよう配慮した。外部講師の授業では事前に指定された英文記事を読み、講師のミニ講義を聞いてから与えられたディスカッショントピックについてブレイクアウトセッションで話し合いを行い、結果を発表した。経済学部 3 年生が運営するオンラインオフィスアワーを週 1 回行った。

## 2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

LMS を用いた授業アンケートおよび学生が自発的に作成したメールコメントによると、カメラオンの双方向オンライン授業に対して「クラスメート全員と知り合いになれる唯一の授業だった」などの高い評価が得られた。外付け書画カメラ(エルモ MX-P2)にノートを映して画面共有し、授業内で書き込む方法に対して「板書のように臨場感がある」「情報提示のペースがちょうどよい」と評価するコメントが目立った。今回のクラスサイズでは目立った接続の問題はなかったが、30 名体制のオンライン授業運営は今後の課題である。